全国協議会ニュース

2024年1月1日発行　第377号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360　FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造　題字：仲田順和
https://www.marrow.or.jp　E-Mail:office@marrow.or.jp

新年のご挨拶

全国骨髄バンク
推進連絡協議会
理事長
梅田 正造

2023年、全国協議会としては本ニュースの追悼記事にありますように、昨年11月10日仲田順和会長がご逝去（享年89歳）されました。仲田会長は、2013年6月に会長に就任され、その後10年の長きに亘り、全国協議会の顔として会員をご指導くださいました。心からのお礼を申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。また、秋に「お手紙展」問題がありました。一方、懸案の「ドナー登録のオンライン化、スワブ検査方法の早期導入」については、スケジュール化され大きく前進しました。

2024年の新年は、理事長就任後半年を経過して迎えますが、いかに全国各地の会員団体の皆様の意向を汲んで、各地の活動を支援できるかに力を注いでいきたいと考えています。是非とも私、協議会事務局にご意見、ご連絡をお願いいたします。

また、骨髄・さい帯血バンク議員連盟、厚生労働省移植医療対策推進室、日本骨髄バンク、日本赤十字社等の関係機関、組織、団体とも密に連絡を取り合い、患者さん支援の目的達成、向上を図ってまいりますので、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

公益財団法人
日本骨髄バンク
理事長
小寺 良尚

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

先年惜しくもご逝去された仲田順和前会長様をはじめ、貴会は長く血液疾患の患者さんへの経済的支援や各地での催事協力などの事業を担われて参りました。そのご活動に深い敬意を表しますとともに、前会長様ご逝去に心より哀悼の意を表します。

貴会や関係各方面のご協力のおかげをもちまして、骨髄バンクのドナー登録者は昨年55万人を超え、国内での採取数も累計で28,000例に達しました。

その一方で、年齢制限に伴うドナー減少に対応すべく、より若い世代のドナーを獲得することが骨髄バンク最大の使命です。本年より、日本赤十字社様とともに、オンライン上でのドナー登録とスワブによるHLA検査の試験的導入を開始し、若年層の登録促進を目指して参ります。

また、骨髄バンクの更なる認知度向上を目指し、シンボルカラーを重点とした企画「＃つなげプロジェクトオレンジ」を立ち上げ、SNSによる情報発信を積極的に行うことで骨髄バンク協力者の輪を広げる取り組みも進めております。

長いコロナ禍とそれに続く社会の変化により骨髄バンクの採取件数は厳しい状況が続いていますが、患者さんが最適なドナーから最良な時期に移植を受けられるよう、コーディネート期間の短縮やドナー休暇制度の導入促進など、更に効果的な施策の拡充にも努めて参る所存ですので、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴会および会員皆様の益々のご発展ご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

日本赤十字社
血液事業本部長
紀野 修一

昨年末にご逝去された仲田会長のご生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、本年が皆さまにとって穏やかな一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

日本赤十字社は造血幹細胞提供支援機関として指定されており、弊社血液事業本部では、骨髄バンク・さい帯血バンク共通の広報誌「BANK！BANK！」による造血幹細胞提供への普及活動、住所不明によりドナーコーディネートに繋がらない骨髄ドナー登録者を減らすべく献血者情報を用いた住所更新作業など、関係団体の皆様と協力しながら取り組みを進めています。

昨年は、非血縁者間造血幹細胞移植の累計症例数が5万例に到達しました。これもひとえに骨髄・末梢血幹細胞及び臍帯血を提供してくださったドナーの皆様をはじめ、日本の造血幹細胞移植医療の発展にご尽力いただいた関係各位のご支援とご協力の賜物と存じます。

弊社では、引き続き、造血幹細胞提供支援機関として、移植医療に貢献できるよう、貴協議会をはじめ、関係団体の皆様と連携し、事業を推進して参ります。今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、貴協議会の益々のご発展と皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンクNOW

《MONTHLY JMDP（12月15日発行）より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状（2023年11月末現在）

		10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数		3,990	3,772	552,309	947,694
患者登録者数		206	168	1,632	67,822
採取数	骨髄	68	62	—	26,118
	末梢血幹細胞	22	23	—	2,013
	合計	90	85	—	28,131

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■11月の区分別ドナー登録者数
献血ルーム／1,234人、献血併行型集団登録会／2,390人、集団登録会／50人、その他／98人

■11月の年齢別ドナー登録者数（現在数）
10代　4,510人／20代　91,566人／30代　136,009人
40代　215,210人／50代　105,014人

■11月の20歳未満の登録者420人
注）数値は速報値のため訂正する場合があります。

仲田順和会長、遷化
命の尊さを考える宗教家としての使命

仲田順和会長が2023年11月10日、遷化されました。総本山醍醐寺座主（第103世）、大本山三宝院門跡、真言宗醍醐派管長、僧階は大僧正、尊称は猊下、享年89歳。本葬は12月17日、醍醐寺金堂（国宝）で僧侶数十名による声明（しょうみょう）と読経が壮大で荘厳なシンフォニーとなって執り行われました。

その金堂の境内、五重塔（国宝）に近いところに1本の枝垂れ桜があります。かたわらには「いのちをつなごう」のメッセージ、この桜は仲田会長自らがお手植えされたものです。時は2015年5月20日、骨髄バンク・さい帯血バンクをもっと知ってほしいとその年の4月に北海道を目指して沖縄を出発した「日本縦断キャラバンカー」が京都醍醐寺に立ち寄ったのを記念して、植樹されました。山伏装束の僧侶20人ほどによる植樹式は真言宗（修験道）の伝統に則ってのものでした。ところで、このときの全国キャラバンでは仲田会長が揮毫した色紙『和』の字が、行く先々の関係者に贈呈されました。「偉いお坊さんが書いた色紙だから畏れ多いことです」とありがたく受け取ってくださったのを思い出します。その色紙は700枚ほどであったと記憶しています。

実は座主になられる直前、醍醐寺の開山に縁起する上醍醐の准胝堂（じゅんていどう）が落雷で全焼し、『和』の字の色紙を10万枚書くことを一心発起されたのでした。とはいえ10万枚は容易ではありません。日々の勤行のかたわら、決して休むことなく毎日数十枚を書いても、1万枚になるには丸1年かかる計算です。さらにその10倍です。

筆者が全国協議会理事長当時、さまざまな報告をしたり、会長の決裁を求めるために、年に何回か醍醐寺を訪れる機会がありました。いつも三宝院の一室へと門跡随伴の若い僧に案内されるのですが、あるときのことです。いつものように右に左にと廊下を折れ、段差を上下して迷路のような三宝院内を歩いて行くと、ある部屋の床に『和』の色紙が所狭しと並べられています。先ほどまで書いていたので墨を乾かしているところで、このあと落款を押すとのこと、大変な作業であることを実感しました。

昨年4月、役員選考委員であった筆者は田中重勝理事長（当時）と醍醐寺で会長のご子息で醍醐寺総務部長の仲田順英師とお話しする機会がありました。全国協議会の役員改選期にあたって、仲田会長のご意思をうかがうことが目的でした。総務部長によると、年齢などのことから、渉外活動は難しいことなどを確認した上で会長を継続していただくことで了解を得ました。しかし、その半年後にまさに急に旅立たれることになりました。

仲田会長は日頃より、骨髄バンクはライフワークであることを語っておられましたが「人の命の尊さを常に考える宗教家の一人として、私自身に与えられた使命」とも語っておられました。安らかにお眠りください。合掌。

（全国協議会顧問　野村 正満）

プルデンシャル生命での講演

12月4日（月）、南青山にあるプルデンシャル生命保険株式会社首都圏第五支社様の定例ミーティングにお招きいただきました。村上忠雄副理事長と千川三重さんからお話しいただき、社員の方から「現状と課題も具体的に分かりましたし、患者様ご家族の思いがとてもよく伝わり、心を動かされました。皆さまを支援しようとする私たちの会社にも誇りを感じることができました。」という感謝のお言葉をいただきました。

僭越ながら元患者の母親という立場で、体験談をお話しさせていただきました。

会場には、10年前、まさに私が13歳の息子を看病した頃と同じ、子育て世代の社員さんが大勢おられました。

「骨髄バンクは他人事」くらいに思っているのが大多数ですとの前置きに、皆さん始めは「まぁそうかな」との様子でしたが、しかし骨髄移植が必要となる病は白血病だけでなく意外にも多く存在し、そしてそれらは本当に誰にでも起こり得るものなのだと進める私に、熱心に耳を傾けて下さいました。闘病中の息子の写真なども披露しましたので、我が事のように聞いてくださったと思います。

『骨髄提供者が居るか居ないかが生死を分ける』との訴えも、今でも息子が不自由ない生活ができているのはドナー様のお陰だとの感謝も、痛かったはずの骨髄提供を『男冥利に尽きる』と言ってくれたドナー様の言葉も、一つひとつかみしめて、臨場感をもって受け入れていただいたと嬉しく思いました。

千川　三重
第26回自費出版文化賞入選作『拝啓　ドナー様、』の作者
全国通訳案内士 国際臨床医学会認定医療通訳士

ドナー登録者減少をどれだけの危機として人々に認識してもらえるのか。ドナー保険を業界に先駆けて導入した保険会社として、一層の努力を誓う皆さんの熱い決意を感じました。

（千川三重）

骨髄・さい帯血バンク議員連盟が、政府へ申し出れ

11月30日（木）、衆議院第二議員会館において、骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会が開催され、「骨髄バンク及びさい帯血バンクの支援等に関する決議」を採択し、内閣総理大臣と厚生労働大臣に申し入れを行いました。この総会には笹川博義会長をはじめ自民党、国民民主党、立憲民主党など与野党各派の方々が参加され、活発な議論が展開されました。厚生労働省からは、令和6年度予算案で、さい帯血バンク事業での高品質臍帯血採取手技料を設けること、骨髄バンク事業のドナー環境整備（ドナー助成）の新設、スワブ検査導入などは、議連の皆様のご支援も必要との説明がありました。

決議文の前文では、近年は年間2,400件（骨髄1,100件、さい帯血1,300件）を超える造血幹細胞移植が行われ、多くの患者の方々の命が救われている。しかし、質の高い臍帯血を確保・調整・保存するために、さい帯血バンクの負担が増加する一方で、多くのさい帯血バンクは赤字経営の状況が続いていること、骨髄バンクでは臍帯血移植や血縁者間のハプロ移植への移行もありその収益は減少傾向にあること、ドナー登録の後に住所不明となる者の数が拡大し続けていること、若年層のドナー登録者をさらに拡大しなければならないこと、本議員連盟においても導入を求めてきたドナー休暇制度の定着が遅々として進んでいないなど、課題が山積していると述べ、政府に対し次の5項目の対策を求めることとされました。

①骨髄バンク及びさい帯血バンクの活動が持続可能となる額の手数料とするよう診療報酬点数の引き上げを行うこと　②さい帯血バンクを紺綬褒章に係る公益団体として認めると共に紺綬褒章に係る公益団体について周知を図ること　③日本骨髄バンクが日本赤十字社の支援を受けて進める住所不明となっている者への対応について必要な支援を行うこと　④日本骨髄バンクが進める自己スワブ検査の導入に向けて必要な支援を行うこと　⑤自治体で行われているドナー休暇制度について必要な支援を行うこと

今回の決議は、厚生労働省で検討されている令和6年度政府予算案、2月初旬に決定される診療報酬点数改定に向けて大きなご支援であり、今後の骨髄バンク事業とさい帯血バンク事業の推進に重要な契機となるもので、心から感謝いたします。

（理事　山崎裕一）

中野中学の生徒さん来訪

11月22日（水）、中野区立中野中学校の2年生6人が「社会貢献活動調査」で全国協議会に来られました。骨髄バンクについての説明をした後、様々な質問を受けました。生徒さんから感想文をいただきましたので紹介します。

私は今回の社会貢献活動調査で全国骨髄バンク推進連絡協議会にお話を聞きにいかなければ、絶対に骨髄バンクについて考えなかっただろうなとお話を聞いて思いました。

今までの私は池江璃花子さんが白血病になってしまった時も「そうなんだー」という感じで、そもそも白血病が骨髄の異常によってなってしまう病気ということすら知りませんでした。しかし、行くことが決まって事前学習で全国骨髄バンク推進連絡協議会のことについてだったり、白血病について調べていくうちにすごく興味が湧いてきて、お話を聞きに行けることがすごく楽しみになりました。

今回のお話ではまず、全国骨髄バンク推進連絡協議会と日本骨髄バンクの違いについて説明してもらいました。日本骨髄バンクを作ることを後押ししたのがこの全国骨髄バンク推進連絡協議会だと知って、逆だと思っていたのですごくびっくりしました。そして日本骨髄バンクを作るための後押しをした以外にも、お金がものすごくかかってしまう白血病や再生不良性貧血などの治療費が払えない家庭に経済的な支援をしたり、ドナー登録者を増やすために様々な活動をしていると聞いて、優しさと思いやりの心がある人しかできないことだなと思い、すごく尊敬しました。

しかし、今の骨髄ドナーの現状は40代が1番割合が多いですが、20代から30代の人の割合はあまり多くなくて5年後には13万人が減ってしまうと聞いて、私達がこのお話を学校に持ち帰ってクラスのみんな、他学年の人に伝えることによって少しでもこの現状を打破できる手助けになるように事後学習の発表をしたいなと思いました。

「ドナーと患者さんを繋ぐという活動を通して考えが変わったなと思う部分はなんですか」という質問の答えが

すごく印象に残りました。命は1人に1つ。しかし、ドナーの人は命が1つしかないけれど分け与えることができる。命は1つだけれど人に分けることができると言うのはすごいことなのだと思いました。私も今はドナーになることはできないけれど、今できる人に伝えることで社会に貢献していきたいです。また、大人になった時に、自分にできる社会貢献をしたいと思いました。例えば、お金に余裕があったら患者さんを助けるための寄付や基金に参加したいなと思いました。

本日は本当に貴重な機会をつくっていただきありがとうございました。これから私達が発表したことが中野中学校全体に広がって、そこからどんどん若い世代に浸透していくことを願っています。

（中野中学校２年　今村 未希）

みやざきの会が20周年記念イベント開催

11月19日（日）、道の駅都城NiQLL（ニクル）にて設立20周年記念イベントを開催しました。

屋外のイベント広場で行った「想いを伝えるコンサート」では日本骨髄バンクの＃つなげプロジェクトオレンジにも参加しているダンスボーカルグループMADKIDのSHINさん（宮崎市出身）を迎え宮崎県のマスコット「みやざき犬」3匹との息のあったコラボダンスは観客を盛り上げて下さいました。またSHINさんは小学生の頃に白血病の妹さんに骨髄を提供されており、当時の想いや、骨髄バンクへの協力を呼びかけられました。高校生の時に白血病を発症し、骨髄移植を受けられた深美陽市さんのトークは、現在 小学校教諭となり命の授業を続けておられるだけあって解りやすく客席に居た子供たちも真剣にお話を聴いていました。

金御岳（かねみだけ）ライオンズクラブさんにご協力をいただいた「献血&骨髄バンクドナー登録会」はたくさんの善意が集まりました。スタンプラリーやダンス、歌のコンサートも道の駅での開催ということもあり、立ち寄られた老若男女たくさんの人が足を止めて下さいました。多目的室では浜の町病院の谷口修一先生、今村総合病院の宇都宮與（あたえ）先生を迎え「医療講演会」を開催。都城医療センターの前田宏一先生と清風会クリニックの中野伸亮（のぶあき）先生をお迎えして「医療相談会」を開催しました。医療講演会は50名限定でしたが満席で和やかな雰囲気の中、真剣で有意義な時間がありました。参加者からは『少し緊張して出向いたけれど、知らなかったことを丁寧に解りやすく教えていただき参加して良かった』等、感想が寄せられました。「輝く命のパネル展」コーナーでは、県内で闘病中に子供たちが描いたり作ったりした作品でしたが、居住地を掲示していたこともあり、身近に感じてもらえた様です。

今回は、ガールスカウトやボーイスカウト、都城聖ドミニコ学園高等学校のボランティア部の皆さんに協力を貰いました。元気で手際の良いボランティアぶりを発揮してくださり大変助かりました。事業の意味を理解いただくため事前に骨髄バンクについて勉強会をしたり、子供たちには「ドナーってなに」の冊子を配布しておりました。参加者やご父兄からは、知らなかったことを学びとても有意義なボランティア活動を体験したと報告をいただきました。イベント終了後もテレビで特集していただいていたこともあり、献血ルームでも登録者が増えたと聞いております。設立から20年にわたり本会議を支えていただいた多くの企業や個人の皆様のお陰と、更に深く感謝の思いが募りました。ひとりでも多くの患者さんの救命を目的とする草の根活動に、懸命に取り組んできた会員と、そのご家族のご協力に感謝いたします。

（みやざき骨髄バンク推進連絡会議　中村福代）

各地のたより

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

埼玉

加須市で笠井ご夫妻の講演会

11月29日(水)、私の住む街・埼玉県加須市に笠井信輔さん、茅原（ちはら）ますみさんご夫妻が講演に来てくださいました。「パストラルかぞ」は1,008人も入る加須市内で一番大きなホールです。でも、さすがの知名度。満員御礼となりました。

笠井さんは2019年末にびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に罹患されました。フジテレビアナウンサーからフリーアナウンサーになられた直後の血液がん発症。病気の重さより、仕事のこと、お金のことの心配が大きかったそうです。一方、妻のますみさんは、涙を見せることなく気丈に、「セカンドオピニオンを求めよう」とおっしゃり、症状が重く、時間の無い中、きちんと情報収集される姿勢は、さすが、元報道アナウンサーです。

本講演では、笠井さん、ますみさん、それぞれが30分ずつ、そして、お二人でのトークを30分と、様々な角度から闘病や闘病支援についてお話をいただきました。もちろん、骨髄バンクについても言及してくださいました！！！

来る2月2日（金）には、再び、笠井さんに同じホールでご講演いただきます。今度は、“加須市”の主催で、笠井さんが「ただいま～」と言って登壇される予定なので、講演の垂れ幕は「お帰りなさい！」というものを用意するそうです。楽しみです。

（副会長 大谷貴子）

心からのご寄付に感謝申し上げます

●11月21日～12月20日（敬称略）

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般

杉村　由美	現金	18,052円
株式会社チエノワ情報システムズ	現金	10,000円
株式会社カケル	現金	2,560円
早瀬　昭一郎	現金	10,000円
匿名	現金	2,000円
匿名	現金	1,000円

●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金

本田　真奈美	現金	5,000円
塩谷　泰人	現金	1,000円
日根　和美	現金	1,000円

●募金箱

株式会社　クスリのアオキ	現金	915,332円
株式会社　マルト商事	現金	86,124円
株式会社　フクヤ	現金	21,976円
株式会社　ナルックス	現金	17,438円

●つながる募金

	現金	15,400円

●キモチと。

	現金	354円

活動資金の支援をお願いします

銀行口座　三井住友銀行　新宿通支店　普通　5666655

郵便振替口座　00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。